

令和5年度第1回平塚市食育推進会議 会議録

日時 令和5年（2023年）7月20日（木） 午後2時から3時30分まで
会場 保健センター2階 健康学習室
出席者 長谷川委員、須田委員、小林委員、江原委員、久保田委員、吉村委員、井手委員、
間橋委員、下島委員、鈴木（基）委員、有村委員（代理）、白藤委員（計12人）、事務局
欠席者 松本委員、松井委員、山崎委員、鈴木（衣）委員

1 開 会

事務局 お時間になりましたので、令和5年度平塚市食育推進会議を開催いたします。

（1）委員改選に伴う委嘱状の交付について

事務局 開会にあたりまして、今年度は委員の任期満了に伴う、委員の改選がありましたので、委嘱状の交付を行います。なお、松本委員、松井委員、山崎委員、鈴木（衣）委員は、本日所用で欠席のため、別途交付いたします。それでは、田村健康・こども部健康課長から委嘱状を交付させていただきます。

（2）あいさつ 健康・こども部 田村健康課長

本日は公私とも御多忙の中、平塚市食育推進会議に御出席くださいまして、誠にありがとうございます。平塚市健康課長の田村でございます。

皆様には日頃より、平塚市の食育の推進に御尽力いただき感謝申し上げます。

この平塚市食育推進会議は、平成17年に施行された「食育基本法」に基づく市町村の個別計画の策定のため、平成19年度に「平塚市食育推進委員会」として発足しました。この委員会で審議した内容をもとに、平成22年3月に「平塚市食育推進計画」を策定し、その後、平成25年度に「平塚市食育推進会議条例」を制定してからは、名称を「推進会議」に改め、「計画」の改定の審議や、実施の推進を目的として開催してまいりました。

昨年度の本会議でもお話しましたが、現行の「第2次平塚市食育推進計画」は、「平塚市健康増進計画」と一体的に改定することとなり、国から、次期健康日本21の開始に合わせ、健康増進計画を開始できるよう準備を進めることが示されたことから、「平塚市食育推進計画」及び「平塚市健康増進計画」を令和6年度に改定することとなりました。

また、次期健康日本21では、食育として取り組む目標も多く提示され、特に「健康的で持続可能な食環境づくり」は、次期食育推進計画でも重要な位置付けとなります。

国や県の動向を踏まえつつ、皆様とよりよい市の食育政策を形成するため、計画を策定してまいりたいと考えておりますので、皆様の専門的な、また、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見をいただきますよう、活発な御審議をお願い申し上げまして、私からの挨拶といたします。

（3）委員自己紹介

事務局 なお、本日の会議ですが、平塚市食育推進会議条例第7条第2項に規定する、過半数の出席により成立いたしますのでご報告いたします。

(4) 会長・副会長の選出

会長に鈴木 基 委員、副会長に長谷川 輝美 委員を選出。

会長あいさつ 平塚歯科医師会 鈴木 基 会長

平塚市食育推進会議の会長に選出されました、平塚歯科医師会 鈴木 基と申します。

本日の会議では、平成27年度に計画期間が始まりました、第2次平塚市食育推進計画の9年目となる最終評価を行い、次期計画における食育の取組の方向性を審議してまいりたいと思います。

市の取組方針を確認するとともに、日頃から地域や所属において食育に携わっている皆様方から多くの貴重なご意見をいただき、本市の食育の取組方針を位置づける第3次計画の改定作業を進めてまいりたいと思います。

なお、本日は3つの議題がありますが、なるべく多くの委員の皆様のご意見をいただきたいと思いますが、時間に限りがございますので、円滑な会議運営ができますよう御協力のほど、よろしくお願いいたします。

事務局 それでは会議に入ります前にご報告があります。本会議は、平塚市情報公開条例第31条に基づき、原則公開となります。会議終了後には、会議録をホームページに掲載し、公表いたしますので、御了承ください。また、本日、傍聴の方はおりません。

2 議 題

鈴木会長 それでは議題に入らせていただきます。

(1) 食育基本法に基づいた国、県、市の計画策定状況について 資料1

事務局 資料1をご覧ください。食育基本法に基づいた計画策定の状況ということで、国・県との関連を確認し、この後、ご審議いただくものです。まず、国の計画は、食育基本法に基づいた計画として、第4次食育推進計画となります。計画期間が令和3年度から令和7年度まで、農林水産省の管轄です。食育推進の全般的な項目を目標としております。続きまして、県の第4次神奈川県食育推進計画は令和5年度から、令和9年度を期間とし、厚生労働省管轄の主管部局が策定している計画です。続きまして平塚市案につきましては、ただいま第2次計画を進めているところですが、この後に最終評価をしていただき、来年度から推進するための第3次平塚食育推進計画を策定していく予定となっております。昨年度の会議までの中で、平塚市健康増進計画と一体的に策定するというのを、決定していただいておりますが、様々な視点を持って本計画の中に入れていきたいとは思っております。地方計画の特徴としてポイントを絞ることで実効性を出していくことを目標に、健康づくりや、命を育む食環境を大切にしていって地産地消の視点などを特化した目標に掲げていく予定となっております。なお、平塚市総合計画、食育計画の上位計画になっている平塚市の全体計画も令和6年度に、新しいものが始まる予定となっております。その中でやはり、本格的な少子高齢化を迎えるにあたって、具体的な対策として、健康寿命の延伸や社会保障費の抑制をしていくということが大きな課題として挙げられています。これらの課題を、個別計画の中でも、改善に向けた取組を進めていくために健康づくりをメインの軸として、健康増進計画並びに平塚食育推進計画の内容を検討していくとしております。

鈴木会長 国、県とは計画期間が違うことが挙げられましたが、概ね同じように目標を連動させていくことが説明されました。また、昨年度までの審議として、今後の市の食育計画が健康増進計画と一体的に策定していくこととし、健康づくりと食育を主軸にしていきつつ、保育、幼児教育、学校での食育の大切さ、地域のめぐみや文化を大切にするという地産地消の観点を盛り込んでいく旨を再確認いたしました。

鈴木会長 次の議事に進みます。

(2) 第2次食育推進計画の進捗状況 (報告)

ア 食育推進計画の事業に関する調書(令和4年度実績・令和5年度実績)資料2

イ 市民アンケート結果と第2次食育推進計画の最終評価 資料3・4

事務局 まずは「ア 食育推進計画の事業に関する調書(令和4年度実績・令和5年度実績)」について資料2をご覧ください。毎年の食育の庁内取組を関係部署に調査を行いまして、一覧表にまとめたものになっています。取組の傾向としましては、令和4年度においてはまだコロナ禍ではありましたが、食育の活動が復活してきたというような状況があります。また、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い食育の事業や学校現場や皆様の各所属でも展開していただいていることかと思えます。市役所の食育事業としましては、様々な手法を用いまして、食育の普及に努めております。オンライン講座の開催やSNSでの普及など、すべての世代に届くよう、そして高齢者の方が参加するような教室では地元開催の事業をふやすなど、工夫をしていくことになっています。

続きまして、「イ 市民アンケート結果と第2次食育推進計画の最終評価」を資料3・4で報告いたします。市民アンケートの結果報告の2ページ目をご覧ください。アンケートは令和5年12月1日現在、平塚市住民基本台帳から抽出した18歳以上男女の無作為抽出を行いました。調査方法としましては、郵送による配布、回収は郵送による回収及びe-kanagawa電子申請システムでの回答を得ました。調査期間は2023年1月16日から1月10日ということで、概ね1か月程度の調査期間としました。発送3,000件に対し、有効回収数は1,060件、うち、電子回答は210件、回収率は35.4%でした。電子回答では、若い世代での回収が多くみられました。平塚市の総合計画アンケートを同時期に行いましたが、ほぼ同じような回収率ということで、食育が市民にとって、関心のある内容と実感しました。次に、このアンケートでの回答を軸に、第2次食育推進計画の最終評価をまとめましたので、資料4をご覧ください。第2次食育推進計画では施策分野ごとに、市民の食育への理解と実践につなげるための指標を掲げ、それに対する様々な施策を実施してまいりました。食育の活動がどのように進捗されているかということ、最終評価とさせていただきます。なお、最終評価方法は、神奈川県食育推進計画の最終評価の手法と同様としています。「基本施策(1)家庭における食育の推進」につきましては、家庭での食環境を反映する施策を掲げています。「朝食を欠食する市民の割合の減少」ということで、小学生についての評価指標になっておりますが、ベースライン値になっている平成26年、第2次の計画策定当初の値よりも悪化したという結果になっています。つづいて「20～30歳代男性の朝食欠食率」については、国、県ともに欠食率が増加傾向の中、平塚市はかなり改善したというような結果になっています。続きまして、「朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の割合」です。目標値には届かなかったものの、ベースライン値よりは改善したという結果になっています。「基本施策(2)学校・保育所における食育の推進」、こちらは「食に関する年間指導計画を策定している小中学校の割合」についてベースラインとなる平成26年から最終年度まで、100%策定されているということで、目標達成しております。児童生徒の食教育が継続的に全市で実施をされていくことによって、ベースライン値から10

年経った今の20代での食育の推進状況がかなりよかったということがあると確認できました。具体的には野菜の摂取量が20代でかなり改善しているというような結果がありましたので、教育や活動において系統立てて食育を推進してきた結果として出ていると思います。続きまして「基本施策（3）地域における食改善の取組みの推進」については、「野菜350g食べている人の割合の増加」というところにつきまして、ベースライン値よりも上昇はしましたが、最終評価としては、目標値に達しませんでした。「よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合の増加」は口腔衛生と連携した食育の進捗になります。ベースライン値より増加しましたが、目標値にも届きませんでした。「健康的な食事内容を心がけている人の割合の増加」は、ベースライン値よりも下がり、目標値よりも下がったということで、進捗率マイナスとなりました。続いて「施策（4）食育推進運動の展開」、こちらが多様な担い手による食育の普及を掲げている施策になっておりまして、具体的には食育のボランティアとして、平塚食生活改善推進団体の皆さんの活動回数を、目標としています。進捗については、令和元年度の間評価時にベースライン値586回のところ、301回ということで、ベースライン値、目標値の見直しを行いました。中間評価時にかなり減少していた理由として、ラジオ放送での献立の普及の番組がなくなってしまったのがそのまま、300回近く活動回数が減ったということでした。そして最終評価結果の令和4年度100回という結果になりましたが、やはり新型コロナウイルスの蔓延などにより活動回数は減少が影響しました。ただし、かなり多くの他市町村が、食生活改善推進員としての活動回数が中止している中でも、可能な食育活動をこつこつと実施をさせていただいたということで100回というのは評価できる活動回数であったかと思います。「基本施策（5）生産者と消費者の交流促進及び環境との調和のとれた農水産業の活性化」、こちらは地産地消の推進を掲げている施策になります。地場産物の優先的な使用の増加が、ベースライン値よりも下がりまして目標値にも至りませんでしたので、×になります。農林水産業の体験をしたことがある人の割合は、ベースライン値よりは上がりましたが、目標値に届きませんでしたので、△という評価になっております。なお、こちらにつきましては担当課では、SNS発信など、イベントができなかったところを補足するような活動を充実させたということで評価をしております。「基本施策（6）食文化の継承、発展のための活動の支援」は、食文化の継承の部分で食育を唱えた村井弦斎の認知率の増加ということで、目標を掲げております。ベースライン値よりは上がりましたが目標値に届きませんでした。この村井弦斎の認知率は、給食での献立などで普及がされていたので、若い世代でも認知率が高くなりました。「基本施策（7）食の安全性、その他食に関する調査、情報提供」ということで、こちらについては全般的な情報提供について、実施をしていくという内容を施策として掲げているので「食育に関心を持つて人の割合の増加」が目標です。ベースライン値よりも下がりまして、なおかつ目標値に届いてませんので、×という最終結果になります。これを踏まえまして、第3次計画の中で重点的に継続実施していくもの、課題が残ったものはどのように次につなげていくかを検討し、次の計画につなげていきたいと思っています。

鈴木会長 資料2では令和4年度の市の取組として、まだコロナ禍ではありましたが、新しい日常生活のもと、市民向け食育事業が再開されたという報告がありました。資料3・4については、昨年度の本会議にて審議し決定した市民向けアンケートの結果報告により第2次食育推進計画の最終評価と今後の課題や食育の方向性の案が出されました。

鎌倉女子大学長谷川委員より、若い世代の食の現状や今後のニーズについて、御意見など何かありますか。

長谷川委員 平塚市はとても食育に力を入れて推進していることが、資料を拝見してわかりました。平塚市で

食育を受けて育った方が20代、30代の方からの回答か定かではないので適切なコメントわかりませんが、食育が響いてきているという気がします。ただ、コロナ禍の影響がとても大きく、食に関する市民活動の制限はかなり大きかったと思います。

鈴木会長 ありがとうございます。続きまして、コロナ禍においても、回数は減ったということですが、地域における食育を続けてきた食生活改善推進団体の江原委員より、現状と今後の地域における食生活改善活動について御意見を申し上げます。

江原委員 コロナ禍でかなり制限がありました。調理実習を再開しても、人数制限が厳しいなどかなり苦慮しましたが、平塚市はまだ、配慮しながら調理室が使える現状、活動をできる範囲で続けられました。市民への食育を再開し始めてからも、市民の方が参加を見合わせる、感染状況によっては開催を悩むなどもありました。3年コロナ禍で思うように活動ができませんでしたので、調理実習の指導者の私たちもとても疲れるのですが、参加された皆さんの「楽しかった」「参加してよかった」の声に癒されました。今年度からは、また活動の充実を図っていきたいです。

鈴木会長 ありがとうございます。次の議題に進みます。

(3) 第3次食育推進計画の策定について

ア 第3次計画に向けた検討状況について 資料5

イ 計画策定に向けた令和5年度スケジュール 資料6

事務局 資料5の資料になります。昨年度からの話になりますが、この食育推進計画と、健康増進計画の計画の2つの計画を一体化させることとしています。資料の1番下にありますが、横断的な取組や共通の基本方針となっているところが、やはり重なっているところと、あと最終目標として、健康寿命の延伸に向けて各事業取り組んでいくというところがありますので、この2つの計画をやはり一体的に取り組んでいく必要があるため、計画を一本化していこうと動いております。ただ昨年度の会議の中では、計画を1つにしていくことを進めていきましたが、大変恐縮ですが審議会として食育推進会議、健康増進計画は別の審議会があり、これらを統合することを提示しました。統合した審議会の審議を経て一体化しないといけない、ということがあるので、時間を要しています。そこで、二つの計画を1冊にする方法で、同じ目標に向かって横断的な取組を各計画に位置付けていきたいと考えています。ゆくゆくは、審議会の統合と計画の統合に取り組んでいこうと思います。

続いて、資料6のスケジュールですが、本日、7月20日会議にて骨格部分をお話しさせていただきまして、予定としては9月21日頃に、第2回会議を開催させていただいて、本日の御意見を反映させえた素案を御提案させていただければと思います。その後、庁内で検討し、11月にパブリックコメントにて市民へ計画を提示、御意見をいただきます。その意見を踏まえて、1月の会議3回目を開催させていただいて、計画が概ね完成したものを審議していきたいと思います。最終的には令和6年4月から実施というスケジュールを考えております。

鈴木会長 資料5では、次期計画の体系図として、食育推進計画と健康増進計画をそれぞれの特徴を持った活動、連動する活動として別計画の位置づけを残しつつ、同じ目標に向かっていくことが提案されました。資

料6では、改定を今年度達成するためのスケジュールとして、非常にタイトスケジュールではありますが、本会議で意見を集約していくことと説明がありました。

医師会下島委員より、健康づくりや生活習慣病の予防、重症化予防における生涯にわたる食育を主軸にすることについての御意見ございますでしょうか。

下島委員 特定健診・後期健診に来られる方では特に高齢世帯で食事内容に問題があることが多いように思います。70代、80代になると食材を買う、調理する食べる行動が減ってきて、いったいどうやって食べているのか、心配になることがあります。自分で食生活を営むことが難しくなったときにどこに相談できるのかということですか、1人住まいの方ですと孤食になってしまい、食材があったときにどう使いまわしてよいかわからなく無駄にしてしまう、どのようにバランスよく食べていけるか、など積極的にアピールできた資料があるといいかなと思います。受診時に医療機関でもお話するのですが、耳も遠いし、時間も限られていたりするので、具体的には媒体があったり、相談先があるとよいと思います。調理実習にでかけるのも難しい方は、医療機関でも一緒に指導していけるとよいと思います。

鈴木委員 ありがとうございます。続きまして、市民委員の白藤委員に、平塚市の特性を活かした食育としてイメージすることなど御意見ございますか。

白藤委員 子どもが食育事業に参加させていただいていましたが、体験すると楽しみながら根付いていくので、良いと思います。食育事業などコロナ禍には中止になっていましたが、それからまた、いろいろとイベントも、食育のイベントが再開されてると思います。市民の方々がいろいろ参加できるものが増えるとよいと思います。

鈴木会長 これから、また再開されていくと思いますので、市民の方が参加できる食育の場が増えるとよいと思います。ありがとうございます。

ウ 第1次素案について 資料7

事務局 食育推進計画と健康増進計画を連動させて策定していく予定でありますので、2つの計画を章立てにわけ、目次で示しています。6章立てになっておりプラス資料編といった形での冊子をまとめることを計画しております。第1章、第2章は、共通の項目、健康づくり、健康増進計画、それから食育推進計画、両方の共通事項として、平塚市の現況や課題等を取り上げる変えていくような形です。第3章は、健康増進計画を掲載し、第4章は、食育推進計画、第5章は横断的な取組が掲載されます。第6章は、健康増進計画・食育推進計画、双方のそれぞれの計画の推進と評価、審議会等、進捗管理についての内容を載せていく形を計画しております。今回2つの計画を、1つにまとめ、平塚市としての健康づくり、食育推進をわかりやすく、まとめた資料にしたいという考えがあります。

第3次平塚市食育推進計画の方は、国で定め、策定を進めております次期健康日本21の開始に合わせて、健康増進計画と一体的に策定するということになりまして、生活習慣病予防及び重症化予防です。健康づくりの食育という形で、目標や施策が、健康増進と食育推進で重複するものもありますので、平塚市の健康課題に取り組む上で、食事や栄養に関わる具体的な行動目標を、食育推進計画としてまとめるといった形をと

りたいと考えています。そこで、健康づくりや食環境の整備に関する施策をできるだけ明確にしまして、また、医療データに基づくデータヘルス計画とも連携をし、市民の疾病構造に対する食の課題を明確にし、改善に向けた食育推進施策というものを強化していきたいと考えております。また一方で、地産地消や食文化の継承、食の情報の充実は、次世代の健康づくりや、持続可能な食環境整備の観点からも、食育の重要な課題であることを位置付けていますので、こういったものも次期計画の中で反映していきたいと考えています。素案の1ページ目に目指す姿を示し、2ページ目に市民が目指す姿として「市民一人一人がライフスタイルに合った食育に取り組み、推進とともに健康で豊かな生活を送っている」、市が目指す姿として「市民、地域企業、行政が連携し、自然に健康になれる食環境づくりを実践している」ということを「目指す姿」として掲げています。2つ目としまして食育推進における行動目標と、取組の内容です。国の第4次食育推進基本計画の方の基本的な方針としましては、3つの柱を「生涯を通じた、心身の健康を支える食育の推進」「持続可能な食を支える食育の推進」「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」と示しています。

特に平塚市の特性として、「持続可能な食を支える食育の推進」という部分を、農水産物の地産地消、地域の食文化を理解するということと関連させてという形にしまして、地域の特性を生かした食育の推進という言葉に変えさせていただいて、掲載を考えています。指標における目標値につきましては、計画における達成状況の評価を目標として設定もさせていただいています。

3ページ目になりますが、一つ目の施策としまして「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」で、基本的な考え方は文章でまとめさせていただいて、すべての指標についてここに上げることはボリュームが多くなりすぎてしまいますので、特に第2次計画最終評価にて課題になったこと、また新たに取り組もうとしているものを抜粋し、現状と課題を載せています。これらをもとにしまして、4ページ目のところで行動目標の指標といった形で挙げています。この行動目標と指標のところについて、本日の追加資料「乳幼児学童期」のものを使いまして、行動目標と指標についての考え方を説明します。健康増進計画では、適正体重を目指すというのが次期計画の中での大きな目標となっています。今まで取り組んできたものとして、5歳児の肥満度15%以上の割合を経年で示したものが、今日配布の資料です。近年10年の推移を見ると、一時改善の傾向は見られたのですが、近年では悪化傾向にあります。これについて、また改善に向けて取り組まなくてはいけないということで、健康増進計画でも、適正体重を目指すために5歳児の肥満度15%以上の割合が下がるように、新たに幼児健診時などに、肥満予防の普及啓発等の対策を予定しております。この肥満度15%以上の割合を改善するための、食に関する活動の目標としまして、朝食をしっかりと食べることや、主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスのいい食事を摂る食習慣により、適正体重を目指すという行動につなげていきたいと思います。食育推進計画の指標では、朝食を食べる5歳児の割合や、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上摂っている3歳児の割合などを今回の行動目標及び指標とする予定をしています。今現在、その3歳児健診のアンケートにて現状値把握のアンケート調査を取っている部分もありますので、まだ空白の部分もありますが、素案をあと数か月の間に確定させ、計画に反映させていきたいと思っています。乳幼児・学童期のものを使いましてこの指標の策定の流れと成果目標値の設定について、ご説明をさせていただきました。

20代から50代までを青・壮年期としまして、市民アンケート回答のうち、体格指数（BMI）と食習慣食認識がどのように関連しているかをまとめました。なお、アンケートでの自己申告の身長・体重から割り出した体格指数になりますので、特定健診の受診者の肥満度等の状況と照らし合わせ、概ね同じような状況であることを確認した上で、参考分析として行動との関連をみていきました。まず、体格指数（BMI）をやせ、普通体重、肥満という区分で分類しました。やせはBMI 18.4以下、普通体重が18.5以上24.9以

下、肥満を25以上とします。特定健診でも、メタボリックシンドロームという考え方を重点的に取り入れ、実施をしていますが、平塚市としては、特定健診は40代ですでに肥満のピークを迎え、30代ですでに男性の場合で肥満が多くなっているというような状況でした。なお女性につきましては、日本の健康・栄養問題としてトピックス的に話題になっていますが、女性のやせというのが大きな課題になっています。平塚市ではどのような傾向か見てきましたところ、20代30代では肥満よりやせの方多く、普通体重が一番多い状況にあり、40代50代になってきますと肥満が増加というような状況になっています。このようなところから40代の特定健診に至る前の若い世代のところもしっかり視野に入れた食育の活動を展開していく必要性があると考えています。次のページを見ていただきますと、すべての項目について、普通体重の方が適正な食生活行動などを取っているという現状もありましたので、バランスのよい食事を食べて、野菜を食べている割合も高いという傾向がみられました。1つ1つ見ていきますと、普通体重の方が一番は好ましい行動を持っている方多かったのですが、やせの方も好ましい食行動に近い傾向です。女性の方が、好ましい食事を実施しているというような傾向がありました。ここが体重がやせではなくて普通の体重を維持しつつ、望ましい食事につながる取組の啓発をしていく必要があるかと思います。また、肥満の方の傾向としては、体重が増えてくる40代50代になってきますと、野菜の摂取率が上がってきたり、塩分に気をつけ始めるということについては、生活習慣病の傾向が見え始めたときに、取組が開始されているのかと思います。そのようなリスクを実際に自分が持った時に改善にむけた行動を始めるのも一つですが、その前にしっかりと、疾病予防の公衆衛生的な普及を充実させていく必要があるかと思います。このようなことから、若い世代から肥満予防する、高血圧予防するという観点で考えていく指標を設定していきたいと思います。「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2食以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合をふやす」ということで、若い世代の食育行動をふやす取組をふやしていく、そして40歳以上の普通体重の割合をふやしていくということで、指標を設定しています。そして、塩分につきましては、減塩を心がけている20代30代と40代以上の割合を指標に挙げています。なお、市食育推進計画につきましては、今後、10年超推進していきますので、現在の学校教育を受けている世帯の方が20代、30代になったときに、ぜひ、健康な若い方が増えていくように、食育実践する方が増えていくようにということで、学校教育などと連携して食育を展開していけるように計画したいと思っています。

続きまして、高齢期に関する分析についてご覧ください。こちらは、昨年度会議にて下島委員より高齢者の食行動分析に関するご意見いただきました。高齢者では低栄養傾向の方というのは、国と比べても決して少なくないということで、特定健診、後期高齢者の健診結果の割合を見たところ、ほぼ同じような傾向がありましたので食行動とリンクして見ていきたいと思います。なお、特定健診、後期高齢者の健診は、低栄養傾向の高齢者の割合とが、65歳以上で20%を超えてるというような状況で、これから高齢化が進む中で、食育として避けて通れないテーマかと思っています。各年代の対策の割合ということで、年代が進んでいきますと、低栄養傾向が増加していくという状況です。肥満からみていく疾病ということで肥満に関する特定健診での指導実施をして参りましたが、60代の時点でも低栄養傾向が20%近くになっていますので、やはり早い時期からの低栄養についての予防に対するの普及啓発も必要かと思っています。男女別で見ると女性が多いというような現状です。男性も80代になってきますと、36%ということで、男性への普及も必要です。適正体重を知っていると回答した割合のリンクを見ていきますと、近年の「フレイル」「オーラル」の考え方の普及が届き始めている60代では認知度が高く、低体重の方でも知っている割合が高い状況でした。低体重傾向の方ですと、医療機関等で注意喚起される機会が多いと推測されます。平塚市としては、市長が、オーラルフレイル対策をしっかりしていくということを掲げていまして、保険年金課の介

護予防の教室でも、特化した教育を行っております。こちらについて先日、会議を行ったところ、オーラルフレイルを予防、改善をしていくことによって、低栄養を改善していける傾向がみられているという報告も入っています。噛むことができる高齢者が増えていったことで食べられる力を維持していることに繋がっているという報告を受けています。主食・主菜・副菜を揃えた食事については、いずれの体格区分でも高い結果になっています。食塩の摂取量につきましても、高齢者の方では、気をつけているが高い現状でした。そして、食行動と年齢、体格区分の関連があるかというところで傾向を見て参りました。食材の買い物について日常的に取り組んでいる割合は、低体重の80代が一番食材の買い物ができていない、ということで体力的な問題なのか環境的な問題なのかというところは、もう少し調査が必要かと思えます。また、60代の肥満の方が25%ということで、60代肥満の方の健康を考えると手づくりが、かなり低いような状況でした。調理を実施している割合も80代になってくると低い状況になります。体調や噛む力に合わせた調理の実施は、肥満、低体重の方、ともに80代で4割を超えており、支援をしていける部分かと思えます。次に、世帯構成により食行動への影響があるかという傾向をみました。全体的には独居の方が買い物、調理ともに年齢を重ねると低くなっていくことが見られました。課題と今後の対策としては、女性では60代で低栄養傾向が発生しており、特定健診の肥満予防と併せて、早期からの低栄養予防の普及も必要であると思えました。先ほど、下島委員からご提案いただきました内容についても、特定健診の担当課に伝達してまいります。医療機関や地域の福祉部門と連携し、高齢者の世帯構成や高血圧等疾患の状況を踏まえた低栄養対策が重要と考えます。

ライフステージ別に市民の取組をまとめ、切れ目なく市民の健康行動につながる食育を推進していきたいと思えます。

次に、「地域の特性を活かした食育の推進」では、持続可能な食として豊かな地場産物や食文化を活かした食環境を作っていくことを挙げています。現状の課題では、市民の農業振興、地産地消に関するニーズは高い状況ですが、コロナ禍ではPRの場が減少したり、体験する機会が減少したということが課題として挙げられています。こちらは、地元産の農水産物の活用や、学校給食での取組、多様な担い手として食生活改善推進団体の取組推進として、全ライフステージ共通の取組としています。

鈴木会長 第3次食育推進計画と健康増進計画の構成をイメージし、食育推進計画の目標などが提案されました。

有村委員 調査結果にもとづいた考えた分析はとても分かりやすかったのですが、朝食の摂取率については20代30代と40代以上としており、40代以上の年代は分けないのでしょうか。

事務局 40代以上では高齢世代まで含む指標となりますが、高齢者の朝食喫食率はもともと高い状況であり、特化した年代設定の指標にはしませんでした。ただし、朝食の摂取はどの世代においても生活習慣病予防や食育において大切な食習慣であり、普及啓発をしていきます。また、健康増進計画の「栄養・食生活」の分野では、高齢者の低栄養傾向を減少させるという目標を設定しています。

鈴木会長 ありがとうございます。子どもの食育分野について、幼稚園協会の久保田委員、保育園協会の吉村委員より「朝食の欠食」や「幼児期の肥満の減少」の目標設定について御意見ございますか。

久保田委員 私立幼稚園でそれぞれの食育プランを立てており、おおまかに把握しているのですが、健康課の肥満度調査、生活実態調査等は協力、取組をしています。幼稚園では朝食は食べられている傾向が多く、帰宅後のおやつにも気を付けて摂られているようですが、全体として肥満傾向が増えているということでした。肥満のお子さんについては、専門の相談を利用するよう勧奨するようにしています。

吉村委員 仕事されている保護者の方がほとんどですが、朝起きれないですとか、生活リズムが崩れてしまい朝食が食べられないと午前中元気がない子どもなども見られます。0歳のときから離乳食が進まないなど幅広い乳幼児の食の課題に対し、保育士がフォローや助言をするようにしています。

鈴木会長 ありがとうございます。続きまして、平塚農商高等学校の間橋委員より、高校生自身の食育や地産地消の活動など何かありますでしょうか。

間橋委員 食育は授業の中で実施するのですが、しっかり理解できているかは定期試験での確認となります。自分事として食育を実践するかというのをやっても元気な世代ですので、難しいところです。大人になり自分の健康などに問題が起こったときに取り組むことが現状ではないでしょうか。学校での教育相談で生徒の状況を見る中、家庭の食環境がクローズアップされていくことはあります。食育が重要なことと生徒たちもわかっていますが、自分事というより仕事としてとらえていることが多いので、これを自分事として響かせるのはなかなか難しいと感じます。

鈴木委員 ありがとうございます。湘南農業協同組合の須田委員より地産地消の推進に関するご意見を願います。

須田委員 食農教育の方に取り組んでおり、学校や保育園などでお米作りや学校給食課と連携して生産者の話を聞く機会を設けさせていただいております。児童はとても興味を持ってくれていますが、今回の調査では地場産の利用が減少していますので、もっと発信をしていきたいと思っております。

鈴木会長 ありがとうございます。村井弦斎の会の小林委員より村井弦斎の食育の考えを給食や地域の催しで引き続き傳承していくことなど、御意見を願います。

小林委員 大正9年より18年に及ぶ健康づくりにおける研究をまとめています。1度皆様にも読んでいただければと思います。また、食道楽の小説に出てくる食材はほとんどが平塚の食材、レシピになります。公民館の親子料理教室でも「玄米団子」を紹介するのですが、体を温める作用を実感していただいております。弦斎祭りを今年はぜひ開催したいと思っています。

鈴木会長 先ほど市民委員からも意見がありましたが、体験の場が記憶に残り、生涯の食育になっていきますので、ぜひ取組を継続いただければと思います。以上で議事の審議は全て終わりますが、他に皆様、何かございますでしょうか。

皆様の御協力により、活発な審議となりましたことを感謝申し上げ、本日本日予定しておりました議題は、終了したいと思います。司会を事務局にお返しします。

3 その他

事務局 活発なご審議をいただきありがとうございました。本日もご審議いただいた内容を、庁内の関係各課と情報共有し、令和6年から12年にわたる本市の食育推進の基盤となるよう、素案策定を進めてまいります。つきましては、再度、素案について御審議いただく機会をいただきたいと思いますと考えております。現段階での次回会議を令和5年9月21日で予定しています。開催通知と資料を9月初めに送りますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

事務局 本日は、大変お忙しい中、平塚市食育推進計画進行会議にご出席いただき、ありがとうございました。今年度中の第3次計画策定に向け、皆様、大変御多忙と存じますが、引き続き御協力のほどよろしくお願いいたします。本日は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。これをもちまして、令和5年度第1回平塚市食育推進会議を閉会します。